The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	外国語学部「情報活用基礎」を担当して
Author(s)	今村, 泰正
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2016, 17, p. 37-38
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/70411
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

外国語学部「情報活用基礎」を担当して

今村　泰正（梅花女子大学　情報メディア学科）

はじめに

本授業は外国語学部1年生を対象に、情報の伝達・収集・整理・分析などの手法の基礎を習得し、情報を活用できるようにするために設置された半期科目（前期・後期実施）である。同一曜日、同一時間に、学生約300名がサイバーメディアセンターの5教室に分かれ、並行して授業が行われている。筆者は2009年より本講義を担当しているが、大阪外国語大学時代に「情報の世界」を担当し始めたのが1998年からなので、外国語を学ぶ学生にコンピュータの基本技能を教えるようになってすでに18年以上がたったことになる。この間、今思えば脆弱なPC環境から現在の大量情報を高速に処理できるICT環境へと教育環境は大きく変化を遂げた。それに合わせて学生の学ぶべき内容も変化してきたが、情報処理の基礎に関していえば、その本質的な部分はそれほど変化していない。もっといえば学生のPC離れはむしろ進んでおり、サイバーメディアセンターのようなPCに容易に触れられる環境の整備は重要度を増しているようにも思えてくる。

ここでは、サイバーメディアセンターでの自らの教育の現状について思うことを述べてみたい。

授業の内容

「情報活用基礎」の目的はシラバスにもある通り、(1)コンピュータを利用して、各種情報の伝達・収集・整理・分析ができる（2）IT リテラシを高めることにより、必要な情報を広く活用することができる、の2つである。これを実現するため、授業ではWindowsによるファイル操作の基礎、ワープロ（Word）による文書作成（連文節変換、各種書式の設定、オブジェクトの挿入、差し込み印刷など）、表計算ソフト(Excel)による表とグラフの作成（表・グラフの書式設定、関数の挿入、印刷設定、簡易マクロの作成など）、プレゼンテーションソフト(PowerPoint)によるスライド作成（テーマの変更、画面の切り替え、アニメーション設定、スライドマスタの設定、配布資料の印刷設定など）を中心に授業を行っている。情報の活用という観点からは、図書館職員による図書館の利用法の出前講義、加えて冊子「阪大生のためのアカデミック・ライティング入門」を用いたレポートや論文の作成法についても可能な限り取り入れている。また筆者のクラスでは、情報発信もITリテラシのひとつと捉えており、時間を工面してHTMLとCSSの文法の基礎を学び、簡単なホームページ作成までを行っている。いずれの内容も基礎的な内容であるが、学生が将来知っていたら役立つかどうかの観点で取捨選択し、最小限の内容を自作テキストにまとめ、CLEで公開しながら進めている。また課題についてもCLEで提示を行っている。ただし課題の提出については、後で挙げる理由からOUメールを利用しているのが現状だ。

学生の反応

学生の多くは、高校時代にWindowsやWordによる文書作成を経験しているようだが、基本的な使用法に関して一通りの学習しかしていないため、ショートカットや補助キーの使用といった便利な使い方については知らないことが多い。そこで本授業では、PC作業の効率化に役立ちそうTipsを内容にちりばめている。当初は単調な入力による学生の「飽き」を防止する目的でこのようなTipsをテキストの中に問題形式で盛り込んだが、意外なほど授業に集中させるのに効果的であった。やはり文科系ということもあり、PCを使う時間が絶対的に不足しているように思われる。Excelの授業では、自らデータを集め、作表からグラフ作成までを行ってデータを分析させる課題を課すことで、グラフによる視覚化によって自分の言いたいことをアピールできるということを実感させるようにした。課題テーマのひとつが「分析」であるのだが、ここ数年、分析が不十分で事実だけを述べるにとどまる学生が増加傾向にあるのが気がかりだ。PowerPointについては、人数（60名程度）と時間の関係で各自にプレゼンを実施させることができていないが、代わりに行って

いるホームページ作成では、それぞれが興味を持って取り組んでおり、ページからは各自のユニークな一面が垣間見られる。全体として、学生は真面目かつ積極的に参加していると考えている。

教室・教育支援システムを使用して

教室のハード面の整備は年々進み、PC、教材提示システム、インターネット接続やファイルサーバとの連携といったネットワーク環境ともに良好である。ソフト面でも OS、アプリケーション、LMS もアップデートや入れ替えが行われ、満足度としては非常に高いといえる。ただ惜しむらくは、サーバの不具合で学生のログオンに時間がかかりすぎることが発生したことであろうか。授業開始後 20 分近く学生のログオンが完了しなかったことが数回あった。幸い教卓の PC が早めにログオンできたので授業としては成立したが、予期せぬトラブルへの対策は、各教員があらかじめ講じておく必要があるだろう。

また出欠管理システムが一昨年からなくなっている。昨年度の「サイバーメディア・フォーラム　No. 1 6」（2015 年 10 月発行）で、同じく外国語学部「情報活用基基礎」をご担当の杉山善明先生も指摘されているように、大人数を学籍番号で分割して複数の教員が受け持っている環境で出席管理に CLE を使うのは、教員への負担が大きすぎる。というのも CLE では、大阪大学の個人 ID と学籍番号との紐づけがされておらず、その学籍番号も専攻ごとに氏名の 50 音順となっているため、KOAN の情報を見ながら学生をグループ分けするしかなく、労力を要する。さらにこれは提出課題を整理する際にも生じる問題である。CLE のユーザ情報に個人 ID の追加が望まれる。現在筆者は毎週出席簿を印刷して持参し、TA の方に出席確認をお願いしている。これは TA と学生のコミュニケーションのきっかけにもなり、騒がしい学生や寝ている学生への対応がとりやすい状況も生まれるケースが見受けられた。

次に学生に課す課題だが、CLE を使ってクラスのグループを作り、グループメンバに提示している。残念なことに 60 人を超える大人数のため、それほど多くの回数出せないでいる。改善のためには、さらに工夫が必要だと考えている。また評価基準が一定になるように課題ごとにテーマをいくつか設け、それをクリアしているかどうかで成績評価を付けざるをえない。客観性は上がったと思うが、学生が苦心して作った内容についてはそれほど大きな評価点にできないというマイナス面もある。

さらに受け取った課題は、整理の段階で学籍番号順に並べる必要がある。そのため課題提出には現在 OU メールを活用している。作成課題を OU メールに添付させて送ってもらい、ファイル名に学籍番号、氏名を記録しながら保存する。これにより教員にとっては KOAN の成績表入力の手間を軽減できるし、学生にとってはパソコンメールの使い方に慣れ、特に「添付忘れ」に気を付ける習慣をつけることにもなる。もっとも提出メールにはすべて受け取り確認メールを返信しなければならないが、提出課題を確認しながら返事を出すことで、間違った提出物の再提出を促すことができる。

おわりに

筆者自身には、指導方法、CLE の活用方法などまだまだ学ぶべき点が多く、改善を要する点もあるが、学生は真面目で向上心もあり、やり方次第で素直な伸びを示すのを何度も経験した。今後も外国語学部の学生が何を身につければ将来役に立つのか考えて、そのきっかけが作れる教材を作成していきたい。

サイバーメディアセンター豊中教育研究棟での「情報活用基礎」の授業環境は、十分に満足できるものである。そしてこの授業は、サイバーメディアセンターセンター職員の皆さん、そして TA としてご協力いただいた皆さんのご支援によって円滑に進めることができている。この場をお借りして、深く感謝申し上げる。